

## 第1回西東京市商店街振興プラン策定委員会 議事録

日 時：平成14年6月6日（木）9:30～12:00

場 所：西東京市役所田無庁舎 502 会議室

出席者：委 員（政所委員長、高市副委員長、金委員、深沢委員、高崎委員、奥田委員、  
池田委員、弓田委員、石部委員）

西東京市（助役、市民生活部長、産業振興課長、主幹、課長補佐、係長、主査）

（財）東京都中小企業振興公社 多摩中小企業振興センター課長補佐（安田）

（株）日本能率協会総合研究所（篠崎）

欠席者：委 員（中村委員）

---

### 1. 助役挨拶

（省略）

### 2. 選任書交付

（省略）

### 3. 委員自己紹介

（省略）

### 4. 事務局紹介

（省略）

### 5. 委員長及び副委員長の選出

委 員 長：政所 利子氏

副委員長：高市 義雄氏

### 6. 委員会の運営方法について

西東京市商店街振興プラン策定委員会は公開とする。

西東京市商店街振興プラン策定委員会傍聴要領は、案のとおり決定する。

議事録の作成については、発言者の発言内容ごとの要点を記録することとする。

### 7. 計画策定の目的について

新市が誕生して、商業振興の基本計画を策定する必要があります。

昨年度実施した広域商業診断報告をベースに課題を検討し、商店街振興の基本方針と具体的プランについて議論していただきたい。

### 8. 西東京市商業の現状と課題分析

資料 6、資料 7 に基づき説明。

## 9. 西東京市商業及び商店街振興の考え方

(議事)

政所委員長      今回1回目ということなので、プラン作成にあたって各自の日頃感じていることでこういうところを一番基本にしてほしい、というポイントを話してほしい。

石部委員      即効性のある形をとるのか、長い時間的スパンで考えるのか、どういう視点でこの振興プランを立てるのか。

商店街というのは、商店街の担い手である商店主及び商店そのものが活性化しないといけない。西東京市の商店街へお客さんに来ていただかないと話にならない。

どうして西東京市の市民、消費者が大型店や市外に流れるかという、地元商店街へ行っても期待できない。そして必要な物がなかなか見つからないからである。

市の現状では商店数は非常に多いということなので、商店同士、商店街同士を連携させ、かなり特殊な物でも西東京市へ行けば必ず手に入るように商店同士でストックできるようなシステムをつくって、情報を発信し、それが浸透すれば、かなりの集客力が図られるのではないか。

地域通貨の話が出ていたが、非常に良いアイデア、インパクトになるものだと思っている。しかし、やり方、展開の仕方を考えていくことが必要である。

いろいろテーマはあるが、ポイントを幾つか絞って達成できるようにすればよいのではないか。

弓田委員      私は、東伏見4丁目に住んでおり、残念ながら、吉祥寺、武蔵野市の商店街へ行く方が多い。でも時間的に武蔵野市まで行きたくない時や、体調が悪い時には自転車ではなく、歩いて行きたい。できれば、近所の商店街で足りればよいと思うが、消費者の立場として価格も鮮度も品揃えも魅力がない。

東伏見駅近くにあるスーパーマーケットには、そこにしかない物があり、必ず月に何回か行く。環境やリサイクルについても、日頃から考えているが、近所の商店街では取り組んでおらず、結局、スーパー等に行っている。

消費者として、毎日買い物をする立場として、商店街がもう少し魅力的なものであるといいと思う。

道路や、自転車置き場等についても考えてほしい。

本当は、自分が年老いたときに身近な商店街が充実していてほしい。自分の将来や子供達のことを考えて、魅力のある商店街に発展していってくればよいと願っている。

奥田委員      私たちの会で話題になっているのは、小さい駄菓子屋である。小さい子から、中高生まで、学校の帰りや塾の行き帰りにその店に立ち寄り、道にしゃがんで、憩っている。子供が集まって和ませてくれるお店が大事ではないかと会では考えている。

ある豆腐屋が先月閉店したが、一方ある豆腐屋は流行っている。朝行かない

と売り切れになるぐらい遠方の人達も買いに来る。お店によって違う。

会として調査を行っているが、小売店だと馴染みがないと入りにくいし、商品をじろじろみていると、なにこの人、なにこのお婆さんは、という目で見られる。結構、小売店は、馴染み以外の人を受け入れにくい。

消費者運動をしていて感じていることは、早稲田の安井さんのような商店街の核となる熱心なパワーのある人がいて、動きまわることにより、それにみんながついていくという雰囲気が必要だと思う。

西東京市の人口構成をみると、わざわざ行って買うということがなくなって、いる年代の人が多くいるような気がする。

池田委員

西東京市になり、市域が広くなり、浅く広く考えがいつてしまいそうなので、行政はもう少しやる気のある人や地域を絞って助けるという振興であればよい。

一番商店街に必要なのは、歩くということではないか。歩ける商店街がほしい。次に大事なことは空き店舗対策で、チャレンジショップなどで空き店舗を活用してもらうシステムをつくっているところもある。

素人（市民）を仲間に引き入れ、歩ける場所にそういうお店やエコを取り入れていってはどうか。エコマネーとしては、絞って実現できるような話にしたい。

田無では4年後に青梅街道開通 400 年を控えており、それに併せて商店街もなにかするといいいのではないかな。

高額な買い回り品は他市に取られてもしょうがないとしても、毎日の買い物は地元でしたいと思う。一番基本である毎日の買い物がきちんとできるような商店街の充実がないと魅力に欠ける。

高崎委員

アスタ内で営業している。アスタでは毎日企業努力をしており、ポイントカード（現在5万人が加入）や営業時間の延長などがある。

商店街では年に一度のサマーフェスティバルとしてお客様に喜んで頂けるよう、阿波踊りや沖縄のお祭り、よさこいソーランなど、諸々の祭りを取り入れた総合した祭りを一大イベントにしようとしている。

今のところ、毎日のサービスはポイントカードしかない。商店街全域で使えるポイントカードなど、毎日毎日がサービスということを考えていかなければならない。

深沢委員

現在、各商店街ともかなり危機的な状況に陥っている。せっかくこういう事業をやるのだから、即効性のあるものをお願いしたい。

各商店街とも空き店舗が目立ち、商店街全体のイメージダウンにつながっている。空き店舗を利用した所に行けば自分の欲しい物が何でも揃うというシステムやチャレンジショップ的なものなど、なんとか即効性のあるものをお願いしたい。

金委員

商店街の仕事を色々し、必ず出てくるのが、例えば、生鮮食料品に関しては本当は近くで買いたい。でも近くのお店は値段が高いわりに鮮度がよくなく、古いものを平気で置いていたりする。また、よそ者、なじみのない客は相手にされないというような敷居が高いという意見、また、歩きたいけど危なくて歩けないという意見などが必ず出てくる。

やはり商店街の活性化をしていくときに、コミュニティの充実の前には個店の魅力がよくなるかといけな。コミュニティ充実をやってお客様が戻ってきててもそれが個店の売りに結びつかなければ商店街活性化になり得ない。

これが、基本の大前提でないかと思う。これを踏まえたうえで、コミュニティの充実のために何をやっていけばいいのかを考えると、西東京市にしかないもの、オリジナルなものが必要で、そうした考えからすると、地域の文化を活用するしかない。

また、コミュニティの充実のために商店街がなにができるかという、市民の困っていることを浮き彫りにし、困っていることを解決してあげればよい。

町に関する普段の生活の中での困っていることが大切だと思う。

親の立場で地域を眺めてみると、今はどこの学校や家庭でもパトロールや駆け込み寺をやっている、商店街にそういったことを取り込めば地域コミュニティにつながる。

消費者アンケートで、商店街の道を通るのはどうしてですかと聞くと、必ず安心だから、街路灯が必ずついているといった意見がでくる。夜道の安全性が確保され、地元にとっては優良な財産となる。町に対して困っていること等の意見を絞っていくと活性化方策が見えてくるのではないか。

高市委員

新たな西東京市のエリアの中で産業振興につながるような商店街の活性化が必要なのではないか。中長期展望という一つの将来に向かった方向性をみなさんと議論していただくことが必要である。西東京市の将来性を含めたあり方を検証していく必要がある。

当面の策として、手のつけられる順序でやっていくにはどんなものがあるか。

各論で消費者の立場から考えていくことも大事である。

商店街を維持し、資産としていくためにかかせない問題は、環境である。道路、歩道、自転車置き場等は絶対要件である。既に都市集積された中で商店街を変革していくことは、既存の商店街の特徴をいかに引き出していくかということであり、それぞれの商店が努力をしていかなければならないが、経営者の高齢化に伴い、頭ではわかっていても実際に変化に対応したお店の運営ができないというのが実情である。

政所委員長

今、商店街では即効性のある外科手術と東洋治療の両方が必要であるといえる。すぐやらなければいけないこと、東洋治療のように体質改善しないといけないような、抜本的改革が必要なものとがあり、市民の意識も変えた上で、事業者の意識については大改革しなければならない。

先ほど、“こんなことをいっては”という発言があったが、こんなことをい

ってはというところが改革の基になるので、ざっくばらんに話をして、具体的なオリジナル版をつくっていくということを事務局にもお願いしたい。

本日の委員会は、これで終わります。どうもありがとうございました。